



安全データシート

Copyright, 2021, 3M Company. All right reserved. 本情報は、3M社の製品を適切にご使用頂くために作成したものです。複製および／またはダウンロードをする場合には、以下の条件をお守り下さい。（１）3M社から書面による事前承認を得ることなく情報を変更したり、一部を抜粋して使用しないで下さい。（２）本情報を営利目的で転売または配布をしないで下さい。

SDS番号	07-0966-7	版	13.01
発行日	2021/03/03	前発行日	2020/07/31

この安全データシートはJIS Z7253:2019に対応しています。

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称

3M(TM) コンパウンド ハード・1-L 5982, 5982M, 35982

会社情報

供給者	スリーエム ジャパン株式会社
所在地	本社 東京都品川区北品川6-7-29
担当部門	オート・アフターマーケット 製品事業部技術部
電話番号	042-779-2185

2. 危険有害性の要約

GHS分類

引火性液体： 区分4
皮膚腐食性及び皮膚刺激性： 区分2
皮膚感作性物質： 区分1
水生環境有害性（急性）： 区分3
水生環境有害性（長期間）： 区分3

GHSラベル要素

注意喚起語

警告

シンボル

感嘆符

ピクトグラム



危険有害性情報

H227	可燃性液体
H315	皮膚刺激
H317	アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ。
H412	長期継続的影響により水生生物に有害。

注意書き

一般：

P102	子供の手の届かないところに置くこと。
P101	医学的な助言が必要な時には、製品容器やラベルを持っていくこと。

安全対策

P261	粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸入を避けること。
P280E	保護手袋を着用すること。
P264	取扱後は、手指をよく洗うこと。
P272	汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
P273	環境への放出を避けること。

応急措置

P302 + P352	皮膚に付着した場合：多量の水と石けん（鹼）で洗うこと。
P333 + P313	皮膚刺激又は発しん（疹）が生じた場合：医師の診断／手当てを受けること。
P362 + P364	汚染された衣類を脱ぐこと。再利用する場合は洗うこと。
P321	特別な処置が必要である（このラベルの補足的な応急措置の説明を見よ）。
P370 + P378G	火災の場合：可燃性液体用の消火剤（粉末消火剤または炭酸ガスなど）を使用すること。

保管

P403	換気の良い場所で保管すること。
------	-----------------

廃棄

P501	内容物／容器を国際、国、都道府県、市町村の規則に従って廃棄すること。
------	------------------------------------

その他の有害性

可燃性粉塵濃度に達することがある。

3. 組成及び成分情報

この製品は混合物です。

成分	CAS番号	重量%
水	7732-18-5	50 - 80
石油ナフサ	64742-48-9	10 - 20
酸化アルミニウム	1344-28-1	< 10
石油系溶剤	64742-14-9	< 10
ホワイトミネラルオイル（石油）	8042-47-5	< 10

3M(TM) コンパウンド ハード・1-L 5982, 5982M, 35982

グリセリン	営業秘密	< 5.0
シリカ	営業秘密	< 1.0

4. 応急措置

応急措置

吸入した場合

新鮮な空気的环境に移動させる。気分がすぐれない場合は医療機関を受診する。

皮膚に付着した場合

直ちに多量の水で15分以上洗浄する。汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。症状が続く場合は医療機関を受診する。

眼に入った場合

直ちに多量の水で洗浄する。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。症状が続く場合には医療機関を受診する。

飲み込んだ場合

口をゆすぐ。気分が悪い時は医療機関を受診する。

予想できる急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

重大な症状や影響はない。毒物学的影響に関する情報はセクション11を参照する。

応急措置を要する者の保護に必要な注意事項

適用しない。

5. 火災時の措置

消火剤

火災の場合：可燃性液体用の消火剤（粉末消火剤または炭酸ガスなど）を使用すること。

使ってはならない消火剤

情報なし。

特有の危険有害性

火災の熱で密封された容器内の圧力が増し、爆発するおそれがある。粉塵は爆発性混合気を生じることがあるので、浮遊粉塵を生じるような方法で消火しない。

消火作業者の保護

水は消火には効果的ではないが、火災にさらされた容器を冷却して爆発を防ぐために使用する。ヘルメット、自給式の陽圧ないし加圧式呼吸装置、バンカーコート及びズボン、腕、腰及び脚の周りのバンド、顔面マスク、及び頭部の露出部分の保護カバーを含む完全保護衣服を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置

区域より退避させること。安全に対処できるならば着火源を除去すること。熱／火花／裸火／高温の物体などの着火源から遠ざけること。禁煙。火花を発生させない工具を使用すること。新鮮な空気ですその場所を換気する。大量に漏洩した場合、あるいは狭小な場所で漏洩した場合は、安全衛生手順にしたがって、蒸気の拡散、排出のための強制換気を行う。警告！モーターは着火源になる。漏洩個所に発生している引火性のガスや

蒸気の着火源となり、燃焼・爆発を起こす可能性がある。 物理的有害性、健康有害性、呼吸保護、換気、個人防護については本SDSの他の項目を参照。

環境に対する注意事項

環境への放出を避けること。 大量の場合には、下水設備や水施設に流入すのを防止する為に、排水溝にカバーし、土手をつくる。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

漏洩を止める。 ベントナイト、パーミキュライトあるいは市販の無機吸収剤を用い、漏洩物の周囲から内側に向けて覆う。漏洩箇所が乾燥するまで十分に吸収剤を混ぜ合わせる。 吸収剤を加えても物理的危険性や健康および環境影響に関する有害性を有することに留意する。 出来る限り多くの漏洩物を防爆仕様の道具を使って回収する。 粉塵の空気中への放出を避ける。(圧縮空気によるブロー等) 粉塵の発生をさけるために電気掃除機を使う。注意：モーターは着火源になり得る。 密閉容器に収納する。 有資格者・専門家が選択した適切な溶剤を使用して残留物を清掃する。新鮮な空気に換気する。溶剤のラベルとSDSを参照し、安全な取り扱い方法に従う。 容器を密封する。 回収した物質は、国内外の法令や規則にしたがって、できるだけ早く廃棄する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

熱した材料に触れないこと。 密閉された換気不良の場所で使用しないこと。 子供の手の届かないところに置くこと。 熱/火花/裸火/高温の物体などの着火源から遠ざけること。禁煙。 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。 眼、皮膚、衣類につけないこと。 この製品を使用する時には、飲食又は喫煙をしないこと。 取扱後は手指をよく洗うこと。 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。 環境への放出を避けること。 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。 酸化剤との接触を避ける(塩素、クロム酸等)。 粒子径を小さくする加工工程では、最小着火エネルギー及び最小着火温度が低下するため、可燃性粉塵による危険性が発生する。 粉塵は着火源があると爆発することがある。 可燃性粉塵が蓄積しないように定期的に清掃する。 移送や混合により帯電すると点火源となる。アース接地、接合、低速・短距離輸送などの低エネルギー輸送法、不活性環境などの注意喚起の必要性を検討する。 本製品の使用により可燃性粉塵が生じることがある。 本製品から発生する粉塵は、粉塵の濃度、点火源などの存在により爆発を引き起こすことがある。製品表面に粉塵が溜まったまま放置しないようにする。 蒸気が地上や床をはって着火源に流れ、遠距離引火することがある。

保管

換気の良い場所で保管する。涼しいところに置くこと。 日光から遮断すること。 熱から離して保管する。酸から離して保管する。 酸化剤から離して保管する。

8. ばく露防止及び保護措置

管理項目

許容濃度及び管理濃度

セクション3に表示されている成分名が、以下の表に見当たらない場合は、当該成分についての適切な作業時の許容濃度または管理濃度がないことを示している。

成分	CAS番号	政府機関	許容濃度または管理濃度	備考
酸化アルミニウム	1344-28-1	JSOH OELs	TWA(総粉じんとして)(8時間):2 mg/m ³ ;TWA(吸入性粉じんとして)(8時間):0.5 mg/m ³	

不溶性アルミニウム、化合物	1344-28-1	ACGIH	TWA（吸入性分画）：1mg/m ³	A4：ヒト発がん性物質として分類できない
鉍物油、高精製油	8042-47-5	ACGIH	TWA（吸入性分画）：5 mg/m ³	A4：ヒト発がん性物質として分類できない
鉍物油、高精製油	8042-47-5	JSOH OELs	TWA（ミストとして）（8時間）：3 mg/m ³	
オイルミスト、ミネラル	8042-47-5	JSOH OELs	TWA（ミストとして）（8時間）：3 mg/m ³	

ACGIH：American Conference of Governmental Industrial Hygienists

AIHA：American Industrial Hygiene Association

ISHL：労働安全衛生法作業環境評価基準

JSOH OELs：日本産業衛生学会許容濃度

TWA：時間加重平均値

STEL：短時間ばく露限界値

CEIL：天井値

ばく露防止策

設備対策

加熱する場合は適切な局所排気装置を使用する。切削、研削、研磨、旋削時に適切な局排換気を行う。空気中の有害物質をそれぞれの許容濃度以下に制御し、粉じん、フューム、ガス、ミスト、スプレーをコントロールするためにも、一般的な希釈換気あるいは局排換気を行う。換気が適切に実施できない場合は、呼吸保護具を使用する。粉塵を作業エリアから除外するために、粉塵発生源の付近に局所廃棄装置を設置する。粉塵の除外システム、搬送システム、加工機などの防爆性が必要かを検討する。爆発時の逃し弁、爆発防止、酸素遮断などの必要性を検討する。排気ダクト、集塵機、処理装置など、作業環境へのダスト流入防止システムがあることを確認する。防爆電気機器の必要性について検討する。

保護具

眼の保護具

ばく露評価結果に準じた眼・顔の保護具を選択・使用する。下記の眼・顔の保護具を推奨します。

サイドシールド付安全メガネ

皮膚及び身体の保護具

ばく露評価に準じた皮膚接触を防止するために、関連した法令で認められた保護手袋・保護衣を選択・使用する。注：保護性を高めるために樹脂ラミネートされた手袋にニトリルゴム製の手袋を重ねてもよい。

推奨される手袋の材質：樹脂ラミネート。

スプレーや、ハネの多い作業など、ばく露の可能性が高い場合には、つなぎ服などの保護衣を使用する。ばく露評価に基づき、適切な保護具を着用する。保護衣の材質として次のものを推奨する。ポリマーラミネート製エプロン

呼吸用保護具

ばく露状況評価で吸入保護具が必要と判断された場合には、吸入防止手順に従って、以下のものから呼吸保護具を選択する。

有機ガス及び微粒子用半面形あるいは全面形防毒・防じんマスク。

特殊な利用に際して、マスクの適合性に疑問があれば、保護マスクのメーカーに相談する。

熱危険性

やけどを防ぐため、この製品を取り扱う際は、耐熱手袋を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

基本的な物理・化学的性質

外観	液体
物理的状态:	エマルジョン
色	白色
臭い	鉱油
臭いの閾値	データはない。
pH	8.8
融点・凝固点	データはない。
沸点, 初留点及び沸騰範囲	100 °C
引火点	93 °C
蒸発速度	4.4 [参照基準: 酢酸ブチル=1]
引火性 (固体、ガス)	適用しない。
燃焼点 (下限)	データはない。
燃焼点 (上限)	データはない。
蒸気圧	データはない。
蒸気密度/相対蒸気密度	1 [参照基準: 空気=1]
密度	データはない。
比重	0.99 [参照基準: 水=1]
溶解度	データはない。
溶解度 (水以外)	中程度
n-オクタノール/水分配係数	データはない。
発火点	データはない。
分解温度	データはない。
粘度/動粘度	18,000 mPa-s
揮発性有機化合物	データはない。
揮発分	70 %
水と規制除外の溶剤を除いた揮発性有機化合物 (JIS-GHSの要求項目ではない)	データはない。

ナノパーティクル

この製品はナノパーティクルを含有する。

10. 安定性及び反応性

反応性

この物質は、特殊条件下では薬品と反応する可能性がある。このセクションの他の項目を参照する。

化学的安定性

安定。

危険有害反応の可能性

有害な重合反応は起こらない。

避けるべき条件

熱。
火花ないし炎
沸点以上の温度

混触危険物質

強酸化性物質

危険有害な分解物**物質**

炭化水素類
一酸化炭素
二酸化炭素
毒性蒸気、微粒子

条件

特段の規定はない。
特段の規定はない。
特段の規定はない。
特段の規定はない。

11. 有害性情報

セクション2で区分表示が義務付けられている特殊な成分を含有する場合には、下記の情報と一致しない場合があります。また、成分の含有量が表示義務となる値以下の場合、成分のばく露が予想されない場合、あるいは製品全体を考慮した場合に、含有成分の毒性情報が、製品の区分、ばく露時の兆候や症状に一致しないことがあります。

毒性学的影響に関する情報**ばく露による症状**

組成の試験結果や情報より、下記の健康影響が考えられる。

眼に入った場合

製品使用中に眼に接触しても、重篤な刺激が発現するとは考えられない。加熱したものから発生する蒸気は、眼を刺激することがある。切断、研磨又は機械加工によって発生する粉じんは眼を刺激する。症状は発赤、腫脹、痛み、催涙及び視力低下など。

皮膚に付着した場合

皮膚刺激： 発赤、腫脹、かゆみ、乾燥、水疱、ひび、痛みなどの症状。皮膚過敏症のヒトにおける非光感作性アレルギー皮膚反応： 発赤、腫脹、水疱形成、かゆみなどの症状。

吸入した場合

気道刺激： 咳、くしゃみ、鼻水、頭痛、鼻と喉の痛みなどの症状。切断、研磨、機械加工によって発生する粉じんは呼吸器系を刺激する。症状は咳、くしゃみ、鼻水、しわがれ声、喘鳴、呼吸困難、鼻と喉の痛み、吐血など。

飲み込んだ場合

胃腸への刺激： 腹痛、胃痛、吐き気、嘔吐、下痢などの症状。

毒性データ

セクション3に開示されている化学成分で以下に情報が無い場合は、そのエンドポイントに対して利用できるデータが無いか、分類するに十分なデータが無い場合があります。

急性毒性

名称	経路	生物種	値又は判定結果
製品全体	皮膚		利用できるデータが無い：ATEで計算。5,000 mg/kg
製品全体	吸入－蒸気 (4 時間)		利用できるデータが無い：ATEで計算。50 mg/l
製品全体	経口摂取		利用できるデータが無い：ATEで計算。5,000 mg/kg
石油ナフサ	吸入－蒸気		LC50 推定値 20 - 50 mg/l
石油ナフサ	皮膚	ウサギ	LD50 > 3,000 mg/kg
石油ナフサ	経口摂取	ラット	LD50 > 5,000 mg/kg
石油系溶剤	皮膚	ウサギ	LD50 > 2,000 mg/kg
石油系溶剤	経口摂取	ラット	LD50 > 5,000 mg/kg
酸化アルミニウム	皮膚		LD50 推定値 > 5,000 mg/kg
酸化アルミニウム	吸入－粉塵/ ミスト (4 時間)	ラット	LC50 > 2.3 mg/l
酸化アルミニウム	経口摂取	ラット	LD50 > 5,000 mg/kg
グリセリン	皮膚	ウサギ	LD50 推定値 > 5,000 mg/kg
グリセリン	経口摂取	ラット	LD50 > 5,000 mg/kg
ホワイトミネラルオイル (石油)	皮膚	ウサギ	LD50 > 2,000 mg/kg
ホワイトミネラルオイル (石油)	経口摂取	ラット	LD50 > 5,000 mg/kg
シリカ	皮膚	ウサギ	LD50 > 5,000 mg/kg
シリカ	吸入－粉塵/ ミスト (4 時間)	ラット	LC50 > 0.691 mg/l
シリカ	経口摂取	ラット	LD50 > 5,110 mg/kg

ATE=推定急性毒性

皮膚腐食性及び皮膚刺激性

名称	生物種	値又は判定結果
石油ナフサ	ウサギ	刺激物
石油系溶剤	専門家による判断	軽度の刺激
酸化アルミニウム	ウサギ	刺激性なし
グリセリン	ウサギ	刺激性なし
ホワイトミネラルオイル (石油)	ウサギ	刺激性なし
シリカ	ウサギ	刺激性なし

眼に対する重篤な損傷又は眼刺激性

名称	生物種	値又は判定結果
石油ナフサ	ウサギ	刺激性なし
石油系溶剤	専門家による判断	軽度の刺激
酸化アルミニウム	ウサギ	刺激性なし
グリセリン	ウサギ	刺激性なし
ホワイトミネラルオイル (石油)	ウサギ	軽度の刺激
シリカ	ウサギ	刺激性なし

呼吸器感作性または皮膚感作性

皮膚感作性

名称	生物種	値又は判定結果
石油ナフサ	モルモット	区分されない。
石油系溶剤	モルモット	区分されない。
グリセリン	モルモット	区分されない。
ホワイトミネラルオイル（石油）	モルモット	区分されない。
シリカ	ヒト及び動物	区分されない。

呼吸器感作性

セクション 3 に開示されている化学成分に対しては、利用できるデータが無いが、分類するに十分なデータが無い。

生殖細胞変異原性

名称	経路	値又は判定結果
石油ナフサ	In vivo	変異原性なし
石油ナフサ	In vitro	陽性データはあるが、分類には不十分。
石油系溶剤	In vitro	変異原性なし
酸化アルミニウム	In vitro	変異原性なし
ホワイトミネラルオイル（石油）	In vitro	変異原性なし
シリカ	In vitro	変異原性なし

発がん性

名称	経路	生物種	値又は判定結果
石油ナフサ	皮膚	マウス	陽性データはあるが、分類には不十分。
石油ナフサ	吸入した場合	ヒト及び動物	陽性データはあるが、分類には不十分。
石油系溶剤	皮膚	マウス	陽性データはあるが、分類には不十分。
酸化アルミニウム	吸入した場合	ラット	発がん性なし
グリセリン	経口摂取	マウス	陽性データはあるが、分類には不十分。
ホワイトミネラルオイル（石油）	皮膚	マウス	発がん性なし
ホワイトミネラルオイル（石油）	吸入した場合	多種類の動物種	発がん性なし
シリカ	特段の規定はない。	マウス	陽性データはあるが、分類には不十分。

生殖毒性

生殖発生影響

名称	経路	値又は判定結果	生物種	試験結果	ばく露期間
石油ナフサ	吸入した場合	発生毒性は区分されない	ラット	NOAEL 2.4 mg/l	器官発生期
グリセリン	経口摂取	雌について生殖毒性は区分されない	ラット	NOAEL 2,000 mg/kg/day	2 世代
グリセリン	経口摂取	雄について生殖毒性は区分されない	ラット	NOAEL 2,000 mg/kg/day	2 世代
グリセリン	経口摂取	発生毒性は区分されない	ラット	NOAEL 2,000 mg/kg/day	2 世代

ホワイトミネラルオイル (石油)	経口摂取	雌について生殖毒性は区分されない	ラット	NOAEL 4,350 mg/kg/day	13 週
ホワイトミネラルオイル (石油)	経口摂取	雄について生殖毒性は区分されない	ラット	NOAEL 4,350 mg/kg/day	13 週
ホワイトミネラルオイル (石油)	経口摂取	発生毒性は区分されない	ラット	NOAEL 4,350 mg/kg/day	妊娠期間中
シリカ	経口摂取	雌について生殖毒性は区分されない	ラット	NOAEL 509 mg/kg/day	1 世代
シリカ	経口摂取	雄について生殖毒性は区分されない	ラット	NOAEL 497 mg/kg/day	1 世代
シリカ	経口摂取	発生毒性は区分されない	ラット	NOAEL 1,350 mg/kg/day	器官発生期

標的臓器

特定標的臓器毒性、単回ばく露

名称	経路	標的臓器	値又は判定結果	生物種	試験結果	ばく露期間
石油ナフサ	吸入した場合	中枢神経系の抑制	眠気又はめまいのおそれ。	ヒト及び動物	NOAEL 非該当	
石油ナフサ	吸入した場合	呼吸器への刺激	陽性データはあるが、分類には不十分。		NOAEL 非該当	
石油ナフサ	吸入した場合	神経系	区分されない。	イヌ	NOAEL 6.5 mg/l	4 時間
石油ナフサ	経口摂取	中枢神経系の抑制	眠気又はめまいのおそれ。	専門家による判断	NOAEL 非該当	
石油系溶剤	吸入した場合	中枢神経系の抑制	眠気又はめまいのおそれ。	ヒト及び動物	NOAEL 非該当	
石油系溶剤	吸入した場合	呼吸器への刺激	陽性データはあるが、分類には不十分。		NOAEL 非該当	
石油系溶剤	経口摂取	中枢神経系の抑制	眠気又はめまいのおそれ。	専門家による判断	NOAEL 非該当	

特定標的臓器毒性、反復ばく露

名称	経路	標的臓器	値又は判定結果	生物種	試験結果	ばく露期間
石油ナフサ	吸入した場合	神経系	区分されない。	ラット	LOAEL 4.6 mg/l	6 月
石油ナフサ	吸入した場合	腎臓および膀胱	区分されない。	ラット	LOAEL 1.9 mg/l	13 週
石油ナフサ	吸入した場合	呼吸器系	区分されない。	多種類の動物種	NOAEL 0.6 mg/l	90 日
石油ナフサ	吸入した場合	骨、歯、爪及び/ 又は毛髪 血液 肝臓 筋肉	区分されない。	ラット	NOAEL 5.6 mg/l	12 週
石油ナフサ	吸入した場合	心臓	区分されない。	多種類の動物種	NOAEL 1.3 mg/l	90 日
酸化アルミニウム	吸入した場合	塵肺症	陽性データはあるが、分類には不十分。	ヒト	NOAEL 非該当	職業性被ばく
酸化アルミニウム	吸入した場合	肺線維症	区分されない。	ヒト	NOAEL 非該当	職業性被ばく
グリセリン	吸入した場合	呼吸器系 心臓 肝臓 腎臓および膀胱	区分されない。	ラット	NOAEL 3.91 mg/l	14 日
グリセリン	経口摂取	内分泌系 造血 器系 肝臓 腎 臓および膀胱	区分されない。	ラット	NOAEL 10,000 mg/kg/day	2 年

ホワイトミネラルオイル (石油)	経口摂取	造血器系	区分されない。	ラット	NOAEL 1,381 mg/kg/day	90 日
ホワイトミネラルオイル (石油)	経口摂取	肝臓 免疫システム	区分されない。	ラット	NOAEL 1,336 mg/kg/day	90 日
シリカ	吸入した場合	呼吸器系 珪肺症	区分されない。	ヒト	NOAEL 非該当	職業性被ばく

吸引性呼吸器有害性

名称	値又は判定結果
石油ナフサ	吸入有害性
石油系溶剤	吸入有害性
ホワイトミネラルオイル (石油)	吸入有害性

製品及び成分に関する追加の毒性情報が必要な場合には、本SDSの1ページに記載した住所、電話番号にご連絡ください。

12. 環境影響情報

セクション2で区分表示が義務付けられている特殊な成分を含有する場合には、下記の情報と一致しないことがあります。セクション2の分類に関する追加情報が必要な場合は、弊社にお問い合わせください。また、成分の環境中での運命及び有害性は、成分の含有が表示義務となる値以下の場合、成分のばく露が予想されない場合、あるいは製品全体を考慮した場合に、この項の内容と一致しないことがあります。

生態毒性

水生毒性（急性）

GHS水生環境有害性（急性）区分3：水生生物に有害。

水生毒性（慢性）

GHS水生環境有害性（長期間）区分3：長期継続的影響によって水生生物に有害。

製品での試験データは無い。

材料	CAS番号	生物種	種類	ばく露	テストエンドポイント	試験結果
石油ナフサ	64742-48-9	ファットヘッドミノウ（魚）	推定値	96 時間	LL50	8.2 mg/l
石油ナフサ	64742-48-9	緑藻類	推定値	72 時間	EL50	3.1 mg/l
石油ナフサ	64742-48-9	ミジンコ	推定値	48 時間	EL50	4.5 mg/l
石油ナフサ	64742-48-9	緑藻類	推定値	72 時間	NOEL	0.5 mg/l
石油ナフサ	64742-48-9	ミジンコ	推定値	21 日	NOEL	2.6 mg/l
酸化アルミニウム	1344-28-1		実験	96 時間	LC50	>100 mg/l
酸化アルミニウム	1344-28-1	緑藻類	実験	72 時間	EC50	>100 mg/l
酸化アルミニウム	1344-28-1	ミジンコ	実験	48 時間	LC50	>100 mg/l
酸化アルミニウム	1344-28-1	緑藻類	実験	72 時間	NOEC	>100 mg/l
石油系溶剤	64742-14-9		分類にデータが利用できない、あるいは不足している。			n/a
ホワイトミネラルオイル（石油）	8042-47-5	ミジンコ	推定値	48 時間	EL50	>100 mg/l
ホワイトミネラルオイル（石油）	8042-47-5	ブルーギル	実験	96 時間	LL50	>100 mg/l

3M(TM) コンパウンド ハード・1-L 5982, 5982M, 35982

ホワイトミネラルオイル (石油)	8042-47-5	緑藻類	推定値	72 時間	NOEL	100 mg/l
ホワイトミネラルオイル (石油)	8042-47-5	ミジンコ	推定値	21 日	NOEL	>100 mg/l
グリセリン	営業秘密	バクテリア	実験	16 時間	NOEC	10,000 mg/l
グリセリン	営業秘密	ニジマス	実験	96 時間	LC50	54,000 mg/l
グリセリン	営業秘密	ミジンコ	実験	48 時間	LC50	1,955 mg/l
シリカ	営業秘密	緑藻類	実験	72 時間	EC50	>100 mg/l
シリカ	営業秘密	ミジンコ	実験	24 時間	EC50	>100 mg/l
シリカ	営業秘密	ゼブラフィッシュ	実験	96 時間	LC50	>100 mg/l
シリカ	営業秘密	緑藻類	実験	72 時間	NOEC	60 mg/l

残留性・分解性

材料	CAS番号	試験の種類	期間	試験の種類	試験結果	プロトコル
石油ナフサ	64742-48-9	推定値 生分解性	28 日	生物学的酸素要求量	10 % BOD/ThBOD	OECD 301D - クローズドボトル法
酸化アルミニウム	1344-28-1	データ不足			N/A	
石油系溶剤	64742-14-9	データ不足			N/A	
ホワイトミネラルオイル (石油)	8042-47-5	実験 生分解性	28 日	二酸化炭素の発生	0 重量%	OECD 301B - 修正シュトルム試験又は二酸化炭素
グリセリン	営業秘密	実験 生分解性	14 日	生物学的酸素要求量	63 % BOD/ThBOD	OECD 301C-MITI (1)
シリカ	営業秘密	データ不足			N/A	

生体蓄積性

材料	CAS番号	試験の種類	期間	試験の種類	試験結果	プロトコル
石油ナフサ	64742-48-9	分類にデータが利用できない、あるいは不足している。	該当なし。	該当なし。	該当なし。	該当なし。
酸化アルミニウム	1344-28-1	分類にデータが利用できない、あるいは不足している。	該当なし。	該当なし。	該当なし。	該当なし。
石油系溶剤	64742-14-9	分類にデータが利用できない、あるいは不足している。	該当なし。	該当なし。	該当なし。	該当なし。
ホワイトミネラルオイル (石油)	8042-47-5	分類にデータが利用できない、あるいは不足している。	該当なし。	該当なし。	該当なし。	該当なし。
グリセリン	営業秘密	実験 生態濃縮		オクタノール/水分配係数	-1.76	非標準的な手法
シリカ	営業秘密	分類にデータが利用できない、あるいは不足している。	該当なし。	該当なし。	該当なし。	該当なし。

土壌中の移動性
データはない。

オゾン層への有害性
データはない。

13. 廃棄上の注意

廃棄方法

関係法令に従って、産業廃棄物として自社で処分するか産業廃棄物処理業者に委託して処分する。

14. 輸送上の注意

国内規制がある場合の規制情報

取扱い及び保管上の注意欄に述べられている一般的注意に従ってください。 船舶及び航空輸送上の危険物には該当しない。（国際連合危険物に該当しない）

15. 適用法令

国内法規制及び関連情報

日本国内法規制（主な適用法令）

労働安全衛生法：施行令 18 条の 2 名称等を通知すべき有害物

労働安全衛生法：施行令 18 条有害物質（表示物質）

労働安全衛生法：施行令別表第 6 の 2 有機溶剤

消防法：指定可燃物（可燃性液体類）

主な法規制物質

成分	法規名		
	安衛法（表示・通知）	化管法	毒劇法
石油系溶剤	330（石油ナフサ）	該当なし。	該当なし。
酸化アルミニウム	189（酸化アルミニウム）	該当なし。	該当なし。
石油ナフサ	551（ミネラルスピリット（ミネラルシンナー、ペトロリウムスピリット、ホワイトスピリット及びミネラルターベンを含む。））	該当なし。	該当なし。
ホワイトミネラルオイル（石油）	168（鉱油）	該当なし。	該当なし。

16. その他の情報

改訂情報

セクション 4：毒性学的影響情報 情報の削除.

セクション 8：作業環境許容値 情報修正.

セクション 9：色 情報修正.

セクション 12：成分生態毒性情報 情報修正.

セクション 12：生態濃縮性情報 情報修正.

セクション 14：輸送上の注意の標準フレーズ 情報修正.

セクション 15：適用法規のステートメント 情報修正.

免責事項：この安全データシート情報は、発行時において正確であると信じられるものです。当社は、法的な要求事項を除き、安全データシートの記載事項について、製品の使用に伴う損失や災害等を補償するものではありません、本安全データシートの記載内容は、記載されている範囲外の使用、あるいは他の物質と組み合わせての使用では効力を持ちません。したがって、製品が使用目的に合致しているかについては、お客様ご自身でご確認ください。

3MジャパングループのSDSは日本のウェブサイトから入手できます。